

アカデミー通信

楽しく学ぼう!



舟田 謙二 学院長

皆さんの中で勉強が好きだという人は何人くらいいますか? 「好きな人 手を挙(あ)げてください!」

お、何人かの人の手が挙がっています。なかなか優秀です。さすがアカデミーの子(笑) そう言う学院長先生は子どもとき勉強が大嫌でした。小学生の頃、すぐ近所にとても頭のいい高校生のお兄さんが住んでいて、その人が勉強が大好きだ、と言っているのを、お母さんが聞いてきて私に言いました。私の答えは「その人 頭おかしいよ!」

私にとりて勉強が楽しい、好きというのにはあり得ない話でした。勉強というのほつまらないものでした。

学校ではいつも授業は全然聞いていませんでした。ですから宿題は忘れるというかやらない、学校でもらったプリントはランドセルの中にグシャグシャになって詰め込まれたまま、提出物なんか一度も出したことありませんでした。

小学1年生のとき国語で反対ことばのテストがありました。対「大きいの反対は?」私の答え「大きいな」

「ながいの反対は?」「ながくな」

「お前の反対は?」「おおくない」

こんな感じで、ことごとくX! でも0点にはなりませんでしたが。

「おの反対は?」「下」
これには「下でない」と書きませんでした。それで百点満点中10点ゲット!

こんな調子で勉強はできませんでした。当たり前です。授業を全然聞いていなかったのですから。

でも、中学生になって英語が授業科目に入りました。英語は好きで、小さい頃から単語をいっぱい覚えていたので、クラスで一番になりました。これがきっかけで勉強ができるようになりました。

勉強にまつたのは大学生になつてからです。もう勉強が楽しくて、楽しくて、大学を卒業するとき、友達みんな就職しました。会社につとめました。でも私はちとちと勉強がしたかったので、アメリカの大学院に留学しました。いくつもの大学院で学んで、最後に卒業したのは34歳の時でした。

大学生の頃から家庭教師や塾で教えていたこともあって、日本に帰ってきてからも英会話学校や大学で教えていました。自分が塾をやりたいくなつて、始めたのがアカデミー学院です。ですからアカデミーでは生徒の皆さんに勉強の楽しさを、これまでもずっと伝えてきました。その結果、勉強大好きになつた子がたくさん生まれ、小学校や中学、高校、塾の先生になつた人がたくさんいます。

アカデミーのホームページに生徒やお母さんたちの声がたくさんついています。ぜひ見てください。あなたも勉強が楽しくなつて、勉強が好きになりますよ。アカデミー学院で検索するか、左のアドレスを入力するか、www.academygakuin.com

中間テスト対策はおまかせ

中学生は前期中間テストが6月に行われます。また先だと思いかもしれませんが、**テスト対策を十分にするには1か月前から勉強を始める必要があります。**もちろん日頃の授業でしっかり学習している上で、という前提ですが。

ここに必ず効果の出る勉強法を紹介します。一年生のみならず二、三年生の皆さんも必見です。しっかり計画を立てて、正しいやり方で後悔しないテスト対策を今からしておきましょう。

- ①まずは授業がベース 何を学んだかテキストを見て復習**
授業の中で先生が言ったことや、取ったノートの内容はわかつたつもりでも、人は学んだことを24時間以内になんと74%も忘れてしまいます。復習しているのはたった2週間程度つまりほとんど忘れてしまうという事です。せかく勉強したのにこれではもたないではありませんか。
 - ②基本をしっかり押さえる**
英単語の意味やスペリング、漢字、計算、理科、社会の用語など基本は確実にできるようにしておきましょう。
 - ③問題演習を通して覚える**
授業で説明を聞いて、あるいは教科書やワークを見てわかたつもりでもいざ問題を解くとできない、ということがよくあります。
 - ④自分の弱点をつぶす**
わからなかつたところや間違えたところは必ず赤ペンやカーラーを使って目立つように書き、その弱点を繰り返すことにより弱点をぶつぶつしていきます。
 - ⑤ノートにまとめる**
知識の整理のために、教科書や参考書などを調、自分なりに図を挿したりしてまとめましょう。
 - ⑥過去問を解く**
テスト範囲は広いので、実践的な総合問題を必ず解くこと。一回で満足せず、満点が取れるようになるまで何度多くり返す。
 - ⑦補習を活用する**
アカデミー学院には年間300時間以上、先生付きの無料補習があります。わからないところは補習で解決! 納得いくまで教えてもらい、自信のない単元は問題を出してもらいできるようにするまで演習しましょう。
- ここまでするのに1か月は欲しいところです。テスト前夜の一夜漬けは記憶に残らず、テスト時の集中力の妨げにもなるので絶対にはいけません。早めにはじめ、今から試験勉強を始めましょう。

苦手克服法

生徒に好きな教科と嫌いな教科を尋ね、その理由を聞くときみな口を揃えて、「分かるから好き」「分からないから嫌い」から嫌いな教科を挙げて、「分かるから好き」「分からないから嫌い」と答えます。当たり前と言えませんが、ここには苦手を克服の鍵があります。

古代の哲学者セネカ(Bornados)は次のように言いました。「私たちは難しいからやろうとしないのではなく、難しいからやろうとしないから難しくなるのだ。」

子どもたちを見ていると、好きな教科はいくらでも勉強します。たくさん勉強するのでますますできるようになります。一方、嫌いな教科はあと延ばしにしてなかなか勉強しようとしません。勉強しないので、よけいに分からなくなりさらに嫌になるという悪循環になっていきます。

つまり、「やろうとしないから難しくなるのです。苦手を克服する人は例外なく、「何とかして苦手を克服したい」という願望を持ち、そのためのアクションを起こします。それは、つまづいているところに戻り、基礎を徹底的にやると分らないところをなくす、ということなんです。勉強はどの教科も基本の上に成り立っていますので、基本さえしっかりやれば、誰でもたいがいのことはできるようになります。

ただ、つまづいているところを自分で発見し、適切な手当てをする、すなわちきちんと分かるまで自分で勉強するというのは、子どもにとっては大変なことなんです。というか、大人にとっても難しいです。それではどうすればいいのでしょうか?

「餅は餅屋」ということわざがあります。今はスーパーでパックしたお餅を年中売っていますが、昔は年末になるとこの家で餅をういていました。でも忙しい時期なので餅がつかない家もあって、江戸時代には家に出張してお餅をういてくれる餅屋さんがいました。専門の餅屋なので鏡餅から丸餅角餅など、とても美味しく作ってくれました。ここから、「専門家に任せるのが一番」という意味で使われるようになりました。

アカデミーにはそれぞれの教科を専門とする先生がいるので、集団で教科を学びながら、苦手教科があたりついてもその教科を個別で学ぶことができます。というとてもニクなサービスもあって、生徒一人ひとりのニーズに応えることができます。ぜひ活用してください。

